

# 協働事業の実施に向けて

～平成23年度協働事業に対する提言～

平成23年11月

柏市協働事業提案選考委員会

## 「平成23年度協働事業に対する提言」について

本書は、平成23年度に実施された協働事業ふりかえり会議及び既存事業の見直しの会議に基づき、来年度実施すべき協働事業及び提案制度の運用上の課題について、選考委員会から柏市へ提言するものである。

\* \* \* \* \*

今年度の提案制度は、次のようなスケジュールで運用された。

4～5月	提案事業の募集 (提案0件)
10月2日	ふりかえり会議 (平成22年度採択事業について、上半期の実施状況をふりかえり、下半期及び次年度に活かしていくために実施。実施団体、事業関係部署、協働コーディネーター、選考委員会、事務局(協働推進課)が参加) 既存事業の見直し (平成22年度選考委員会からの提言により制度化。採択～事業実施から5年経過し、現在も継続されている事業について再評価し、今後の事業に活かしていくために実施。実施団体、事業担当課、協働コーディネーター(オブザーバーとして参加)、選考委員会、事務局(協働推進課)が参加)

今年度の協働事業提案制度は、残念ながら市民公益活動団体からの提案がなかった。

しかし、10月に実施された、ふりかえり会議と新たに制度化された既存事業の見直しの会議において、各事業に対する建設的な意見が出た。また協働事業のあり方に関する課題も散見された。

こうした状況を踏まえ、今後の事業実施及び協働事業提案制度の運用における課題と改善案を提案するものである。来年度以降の事業及び制度に反映されるよう、検討されたい。

## 目 次

1	ふりかえり会議について	…… 1 頁
2	既存事業の見直しについて	…… 3 頁
3	ふりかえり会議及び既存事業の見直しを終えて (小松孝之委員長)	…… 7 頁

### ■協働事業提案選考委員名簿（◎委員長，○副委員長）

◎ 小 松 孝 之	株式会社ちばぎん総合研究所 受託調査部長
○ 沢 田 久	市民公募委員
安 藤 雄 太	立教大学大学院 21 世紀デザイン研究科兼任講師 茨城キリスト教大学兼任講師
小 島 琢 夫	(特活) ときわ会まちづくりネットワーク前理事長 (特活) 笑実里 副理事長
宮 坂 いち子	(特活) ホスピスケアを広める会 理事長
福 井 信 行	市民公募委員
石名坂 賢 一	柏市 企画部企画調整課 副主幹
高 橋 直 資	柏市 地域づくり推進部協働推進課 課長

### ■協働コーディネーター名簿

松 清 智 洋	柏市民活動センター マネージャー
松 永 敏 明	元協働事業提案制度・市民公益活動補助金選考委員（市民公募委員）

## 1 ふりかえり会議対象2事業への提言

去る10月2日に、平成22年度に採択された2事業について、実施団体と関係部署、協働コーディネーター、選考委員会、事務局の5者間でふりかえり会議が実施された。

その内容を踏まえて当該2件の協働事業の次年度以降の実施について、市に提言することとした。

①	対象事業名	子どもスポーツ苦手解決支援事業 スマイル運動教室（鉄棒上達教室）
	実施団体名	(特活)スマイルクラブ
	事業関係課	スポーツ課
②	対象事業名	学校における「デートDV」防止プログラム実施事業
	実施団体名	グループSEC(地域で‘性共育’をつくる会)
	事業関係課	学校保健課，男女共同参画室

### ふりかえり会議の概要

#### ①子どもスポーツ苦手解決支援事業 スマイル運動教室（鉄棒上達教室）

<p><b>【事業概要】</b>            柏市内小学校10校の3年生で逆上がりが苦手な子20名を対象に、1回60分の教室を週2回で合計4回放課後に実施（鉄棒上達教室）。            また、鉄棒上達教室のサポートスタッフを養成する研修会も実施。将来的な市のスポーツ振興の担い手づくりを目指す。</p>	
<p><b>【事業の現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災の影響により校庭が使用できず、上半期は実施していない。</li> <li>学校からの申し込みは、10校のところ8校。</li> <li>情報の伝達・共有において、実施団体と担当課との間で認識の不一致があった。</li> </ul>	
1 事業のすすめかたについて	<p>○実施団体と担当課の間で、コミュニケーションの不足や、意思疎通がうまく図られていない部分が見受けられるため、定期的な連絡会議の実施が必要。</p> <p>○担当課は、学校側のニーズ（土日開催、授業内での実施等）を調整し、より多くの学校における実施を目指して欲しい。</p>
2 協働のありかたについて	<p>○協働事業は、1回事業をやれば良いということではなく、その事業の効果や考え方を、行政に定着させていくということが重要。</p> <p>○学校へ定着させていくには、体育教員自身もノウハウを習得するこ</p>

	とが望ましい。そのためには、教育課程編成の指導・助言や、教職員の研修などを担当している指導課とも連携し、効果の実現に向けて戦略的に進めていくことが求められる。
3 次年度以降の事業実施について	<p>○当該事業の目標を明確にし、その達成のための手法や評価について確立していくことが必要。</p> <p>○目標が達成された際には、事業の終了も考えられる。予め、学校への定着を図るため、教員に対し、鉄棒指導のノウハウを蓄積させる方法についても検討して欲しい。</p>

## ②学校における「デートDV」防止プログラム実施事業

<b>【事業概要】</b>	
市内の中学校 10 校で「デートDV防止プログラム」を実施（90～120 分）。内容は、「デートDVとは何か」、「DVの本質は『力と支配』」、「デートDVをなくすために気づくこと・学ぶこと」、「DVが起きたときのサポートについて」など。	
<b>【事業の現状】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・上半期で3校実施。学校からの申し込みは10校予定のところ、8校。</li> <li>・事業実施に当たり、実施団体は学校との事前打ち合わせ・事前アンケート・実施後のアンケート・教員からの感想の聴取など、きめ細やかに対応している。</li> <li>・役割分担や情報共有において、実施団体と担当との間で認識の不一致があった。</li> </ul>	
1 事業のすすめかたについて	<p>○事業実施までの準備において、実施団体の負担が大きく、今後の事業への影響が懸念される。役割分担について、実施団体と担当課でよく協議することが必要。</p> <p>○委託料の支払いについて、実施団体側から要望が出されている。委託料支払いのあり方は次年度以降の予算で検討することになるが、実施団体の経費負担も考慮し、こちらもよく協議して欲しい</p>
2 協働のありかたについて	<p>○社会的に理解されにくい、必要性の高い先駆的な事業を学校現場に持ち込み、目標10校のところ8校まで実施を決めたことは、実施団体はもちろん、担当課の姿勢も素晴らしい。</p> <p>○当該1事業に限ったことではないが、保守的になりがちな学校現場を変えていくということも必要である。</p>
3 次年度以降の事業実施について	<p>○このような事業は1回では身につくものではなく、教員の理解を深めることも必要と思われる。教職員の研修などを担当している指導課とも連携し、戦略的に進めていくことが求められる。</p> <p>○養護教諭のアンケート結果にある「生徒の家庭でDVが起こっていると感じたことがある＝20校中12校、生徒自身にDVが起こっていると感じたことがある＝20校中6校」という結果を深刻に受け止め、行政（教育委員会）全体での取り組みについて検討して欲しい。</p>

## 2 既存事業の見直しを踏まえての提言

去る10月2日に、平成17年度に採択された3事業について、実施団体と担当部署、選考委員会、事務局の4者間（協働コーディネーターはオブザーバーとして参加）で見直しが行われた。

その内容を踏まえて当該3件の協働事業の次年度以降の実施について、市に提言することとした。

①	対象事業名	大津ヶ丘中央公園敷地内の花壇の協働による管理事業
	実施団体名	花ボラ会
	事業担当課	公園管理課
②	対象事業名	柏JSL学習会
	実施団体名	JSL児童生徒の日本語と教科学習の支援会
	事業担当課	指導課
③	対象事業名	小学校体育の授業サポート事業
	実施団体名	(特活)スマイルクラブ
	事業担当課	指導課

### 既存事業の見直しのすすめかた

- 事業担当課より、協働事業報告書により事業実施状況報告（5分）
- 選考委員より、実施団体及び担当課へ質疑応答（10分）
- 採点（4分）（以上、20分間で実施した）

### 既存事業の見直しの概要

#### ①大津ヶ丘中央公園敷地内の花壇の協働による管理事業

##### 【事業概要】

大津ヶ丘中央公園敷地内の花壇を年間を通じて維持管理する事業で、花壇の管理にあたっては、購入した苗の定植だけでなく、種からの苗作りや堆肥作りを行う。また、定期的な雑草の除去、水遣りも計画的に実施する。

1 事業のすすめかたについて	<p>○実施団体と担当課の間で、役割分担の意識が希薄であり、コミュニケーション不足が見受けられるため、話し合いが必要。</p> <p>○実施団体にメンバーの減少及び高齢化が見られ、負担の増大が懸念されることから、地域住民を多数巻き込むなど、事業そのもののあり方を検討したほうが良い。</p>																															
2 協働のありかたについて	<p>○現在は、新しい協働のありかたとして、里親制度なども実施されている。現在の形（委託事業）にこだわる必要があるのか疑問。</p> <p>○但し、市民が花壇の管理をするという協働の形は素晴らしく、柏市全体に広めていくことを検討して欲しい。</p>																															
3 次年度以降の事業実施について	<p>○コミュニティ意識が薄れている現在、地域の町会・自治会に働きかけ、自分たちで地域を良くするという動きを促してみてもどうか。</p> <p>○さらに、地域に小学校があるなら、町会・自治会から働きかけて、未来を担う子どもたちに参加してもらおうのも、一つの方法である。</p>																															
4 参考（再評価の結果）	<p>(1) 評価結果</p> <p>8名の選考委員会において4つの評価項目（配点10点、全委員計80点、合計320点）で評価を行った結果は次のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="507 864 1038 1137"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>配点</th> <th>得点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ニーズ・公益性</td> <td>80</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>独創性・専門性</td> <td>80</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>協働の必要性</td> <td>80</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>予算の妥当性・費用対効果</td> <td>80</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>320</td> <td>207</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="507 1151 1393 1413"> <tr> <td rowspan="4">事業への評価</td> <td>公益性が高く、今後も協働事業として実施することが望ましい。</td> <td>A</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>多少課題はあるが、今後も、協働事業として取組んでもらいたい。</td> <td>B</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>協働事業としてではなく、共催・後援・広報支援など、なんらかの事業協力でよいと思われる。</td> <td>C</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>今後は協働事業として実施しないほうがよい。</td> <td>D</td> <td>1名</td> </tr> </table> <div data-bbox="507 1442 1265 1861"> <p>The radar chart displays the performance of the project across four evaluation categories. The outer blue line represents the 'Points' (配点) and the inner black line represents the 'Score' (得点). The categories and their respective values are: Needs &amp; Publicity (54/80), Originality &amp; Specialization (45/80), Necessity of Cooperation (49/80), and Budget Appropriateness &amp; Cost-Effectiveness (59/80).</p> </div>	評価項目	配点	得点	ニーズ・公益性	80	54	独創性・専門性	80	45	協働の必要性	80	49	予算の妥当性・費用対効果	80	59	合計	320	207	事業への評価	公益性が高く、今後も協働事業として実施することが望ましい。	A	—	多少課題はあるが、今後も、協働事業として取組んでもらいたい。	B	2名	協働事業としてではなく、共催・後援・広報支援など、なんらかの事業協力でよいと思われる。	C	5名	今後は協働事業として実施しないほうがよい。	D	1名
評価項目	配点	得点																														
ニーズ・公益性	80	54																														
独創性・専門性	80	45																														
協働の必要性	80	49																														
予算の妥当性・費用対効果	80	59																														
合計	320	207																														
事業への評価	公益性が高く、今後も協働事業として実施することが望ましい。	A	—																													
	多少課題はあるが、今後も、協働事業として取組んでもらいたい。	B	2名																													
	協働事業としてではなく、共催・後援・広報支援など、なんらかの事業協力でよいと思われる。	C	5名																													
	今後は協働事業として実施しないほうがよい。	D	1名																													

②柏 J S L 学習会

<p><b>【事業概要】</b>                  市内在住の日本語を第二言語とする児童生徒（J S L 児童生徒）が、学校の教科学習に効果的に参加できるよう、母国語と日本語を併用した学習会を開催し、教科学習を支援する。                  J S L 児童生徒の生存率（退学、不登校を防止）を高め、共生の社会づくりを促進する。</p>																																
1 事業のすすめかたについて	○経費積算が低すぎるように思う。実施団体の専門性や負担を考慮し、適切な額での委託契約事業とすることを検討して欲しい。 ○支援が必要な児童・生徒はもっと多いと思う。さらなる連携強化・広報により、支援件数を増加させて欲しい。																															
2 協働のありかたについて	○協働で事業を実施するのだから、教科書支援の実施で終わらせず、各校1～2名の子が、初期日本語支援を終えた後も、授業に付いていけないという事実に対しての分析が必要。																															
3 次年度以降の事業実施について	○社会的な認知度は低い、必要性は高く、行政とNPOとの協働でこぞできる事業であるため、継続が望ましい。 ○親が日本語でのコミュニケーションを図れないと、子どもの日本語能力が上がらないという問題点も考えられる。当事業でニーズを発見⇒担当課へ連絡等、今後は、行政全体として家庭へ支援に入ることも検討して欲しい。																															
4 参考（再評価の結果）	(1) 評価結果 8名の選考委員会において4つの評価項目（配点10点、全委員計80点、合計320点）で評価を行った結果は次のとおりである。 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>配点</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ニーズ・公益性</td> <td>80</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>独創性・専門性</td> <td>80</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>協働の必要性</td> <td>80</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>予算の妥当性・費用対効果</td> <td>80</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>320</td> <td>285</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td rowspan="4">事業への評価</td> <td>公益性が高く、今後も協働事業として実施することが望ましい。</td> <td>A</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>多少課題はあるが、今後も、協働事業として取組んでもらいたい。</td> <td>B</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>協働事業としてではなく、共催・後援・広報支援など、なんらかの事業協力でよいと思われる。</td> <td>C</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>今後は協働事業として実施しないほうがよい。</td> <td>D</td> <td>—</td> </tr> </table> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>ニーズ・公益性: 75                  独創性・専門性: 68                  協働の必要性: 71                  予算の妥当性・費用対効果: 71</p> </div>	評価項目	配点	計	ニーズ・公益性	80	75	独創性・専門性	80	68	協働の必要性	80	71	予算の妥当性・費用対効果	80	71	合計	320	285	事業への評価	公益性が高く、今後も協働事業として実施することが望ましい。	A	5名	多少課題はあるが、今後も、協働事業として取組んでもらいたい。	B	2名	協働事業としてではなく、共催・後援・広報支援など、なんらかの事業協力でよいと思われる。	C	1名	今後は協働事業として実施しないほうがよい。	D	—
評価項目	配点	計																														
ニーズ・公益性	80	75																														
独創性・専門性	80	68																														
協働の必要性	80	71																														
予算の妥当性・費用対効果	80	71																														
合計	320	285																														
事業への評価	公益性が高く、今後も協働事業として実施することが望ましい。	A	5名																													
	多少課題はあるが、今後も、協働事業として取組んでもらいたい。	B	2名																													
	協働事業としてではなく、共催・後援・広報支援など、なんらかの事業協力でよいと思われる。	C	1名																													
	今後は協働事業として実施しないほうがよい。	D	—																													



### ③小学校体育の授業サポート事業

<p><b>【事業概要】</b>          小学校の体育授業にスタッフを派遣。複数の指導者により授業の質を高めると同時に、運動指導のスキルを教師と団体が共に高めあう。こうしたことにより、子どもたちの体力向上を図ることも目的としている。なお、当面は特殊学級等がある小学校でのサポート事業を中心としつつも、学校の要望に応じて普通学級のサポートも実施する。</p>																																
1 事業のすすめかたについて	○特別支援学級の体育授業において、サポートスタッフの必要性は高い。もし職員を追加配置したとすれば、現在の予算では収まらず、費用効率の良い事業と言える。																															
2 協働のありかたについて	○この事業自体は素晴らしいが、毎年同じ事業の繰り返しでは成果が定着せず、永続的に続けることに成る。事業の効果を、いかに学校に定着させていくのかという戦略が重要。																															
3 次年度以降の事業実施について	○この事業は、誰でも教育を受ける権利があることを学校に示していくために必要な事業。 ○現状では、同じ学校で2年続けて事業を実施することはできない。3年間続けての実施を可能にし、その間にノウハウを引き継ぐ等、新たなやり方を検討して欲しい。																															
4 参考（再評価の結果）	<p>(1) 評定結果              8名の選考委員会において4つの評価項目（配点10点、全委員計80点、合計320点）で評価を行った結果は次のとおりである。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>配点</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ニーズ・公益性</td> <td>80</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>独創性・専門性</td> <td>80</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>協働の必要性</td> <td>80</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>予算の妥当性・費用対効果</td> <td>80</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>320</td> <td>263</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td rowspan="4">事業への評価</td> <td>公益性が高く、今後も協働事業として実施することが望ましい。</td> <td>A</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>多少課題はあるが、今後も、協働事業として取り組んでもらいたい。</td> <td>B</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>協働事業としてではなく、共催・後援・広報支援など、なんらかの事業協力でよいと思われる。</td> <td>C</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>今後は協働事業として実施しないほうがよい。</td> <td>D</td> <td>—</td> </tr> </table> <div style="text-align: center;"> <p>ニーズ・公益性: 68              独創性・専門性: 64              協働の必要性: 63              予算の妥当性・費用対効果: 68</p> </div>	評価項目	配点	計	ニーズ・公益性	80	68	独創性・専門性	80	64	協働の必要性	80	63	予算の妥当性・費用対効果	80	68	合計	320	263	事業への評価	公益性が高く、今後も協働事業として実施することが望ましい。	A	2名	多少課題はあるが、今後も、協働事業として取り組んでもらいたい。	B	5名	協働事業としてではなく、共催・後援・広報支援など、なんらかの事業協力でよいと思われる。	C	1名	今後は協働事業として実施しないほうがよい。	D	—
評価項目	配点	計																														
ニーズ・公益性	80	68																														
独創性・専門性	80	64																														
協働の必要性	80	63																														
予算の妥当性・費用対効果	80	68																														
合計	320	263																														
事業への評価	公益性が高く、今後も協働事業として実施することが望ましい。	A	2名																													
	多少課題はあるが、今後も、協働事業として取り組んでもらいたい。	B	5名																													
	協働事業としてではなく、共催・後援・広報支援など、なんらかの事業協力でよいと思われる。	C	1名																													
	今後は協働事業として実施しないほうがよい。	D	—																													

### 3 ふりかえり会議及び既存事業の見直しを終えて

(協働事業提案選考委員会委員長 小松 孝之)

今回、ふりかえり会議に参加し、また初めて既存事業の見直しを実施したが、単なる評価で終わらず、事業のあり方について建設的な意見が出され、大変有意義であった。議論の中で注目した点と制度運用について感じた点を列挙したい。

- (1) ふりかえり会議は、従来、実施団体、事業関係部署、協働コーディネーター、事務局（協働推進課）の4者が参加し、意見交換により得られた「気づき」をその後の事業展開に活かしていくという目的で実施してきた。
- 今回、初めて選考委員会が参加したことで、事業のすすめかたといった事務的な内容に留まらず、それぞれの協働事業が目指すべき将来的な展望と、具体的な改善案が出され、画期的な内容となった。

- (2)-① 既存事業の見直しについては、3点ほどの改善点を挙げたい。

1点目は、見直しまでの期間である。現行では5年間の事業継続を待って見直しを実施することになっているが、3年間に変更することを提案したい。

協働事業の目的の1つは、実施団体と事業担当課が互いの専門性を活かし、企画段階から話し合いを行うことで、事業効果を高めていくことにあつる。しかし、5年も経過すると、事業が硬直化してしまうのではないかと、という意見が多く出されたためである。

これは協働事業提案制度の制度設計そのものに関わることでもある。採択に際し、実施団体及び事業担当課に対して、以下の2点をしっかり示していくことが求められる。

ア 事業を継続する場合には、5年間で事業計画を立て、3年間で見直しを行う。場合によっては予算の減額も予め念頭に入れること。

イ また、ふりかえりは毎年実施すべきである。1年間の事業をふりかえり、課題や役割分担の確認を行う。それを踏まえ、次年度の事業の企画立案を双方協議の上で行うこと。

- (2)-② 2点目は、議論の時間である。今回は、評価に主眼を置いていたため、20分でプレゼンテーションと質疑応答及び採点が行われたが、1時間に変更することを提案したい。

今回、短い時間の中でも、あらゆる視点から様々な意見が出され、今後の事業展開について具体的な提案があつた。

どのように受け止めるかは事業担当課の判断となる。だからこそ、協働事業提案制度の選考委員会という外部委員が議論を尽くし、また継続の可否について意見を述べていくことが、政策決定過程の透明性を確保するためにも必要不可欠であると感じた。

(2)-③ 3点目は、ふりかえり会議及び既存事業の見直しについて、選考委員会から出された意見を、いかに政策に反映させていくか、という問題である。

今回は、これらの意見を提言書にまとめ、市に提出するという方法を採用した。市としても、今後、ふりかえり会議及び既存事業の見直しの内容を、今後の事業展開に活かす方法を、検討されたい。

平成17年度 協働事業提案の状況（その1）

※「網掛け」部分：選考を通過した提案（5件）

No.	提案団体名	事業名	事業内容	関係部署
1	農産物直売所「とばり野菜」	農産物直売所『とばり野菜』	農産物の栽培、管理、販売に農家と市民が一体となり取り組むことにより、「食」と「環境問題」に取り組む。また、農業体験を通じて、障がい者等の社会復帰と自立を促す。	障害福祉課 農政課
2	特定非営利活動法人 教育支援三アイの会	児童・生徒の具体的指導に悩む教員への支援活動	教育のあり方に戸惑い、悩む教員を対象として教育実践上の課題解決手法を学ぶ研修講座を開催する。この研修を通じ、教育理論と実践の課題を解決していく中で、教員の自信回復を図る。	指導課
3	特定非営利活動法人 教育支援三アイの会	児童・生徒スポーツ活動団体指導者連絡協議会の設立と活動	「学校教育における学習としてのスポーツ活動」と「地域における学習外のスポーツ活動」における連携強化を図り、教育効果を高める。	指導課 スポーツ課
4	NPOエコ平板・防塵マスク支援協会	協働によるまちづくりを通して、障がい者の自立を図る	公園の整備に「エコ平板・製品」を使用した環境設計を行い、障がい者の雇用確保と社会参加を通しての自立を図る。	障害福祉課 公園緑政課
5	健康麻雀倶楽部	健康麻雀コミュニティ	老化防止に役立つとされている、健康麻雀（賭けない、吸わない、飲まない）の入門講座、指導者教室、オープン戦等を通じ、健康麻雀の普及を図ることをもって、中高年の地域社会における、仲間づくり・健康づくりの実現を図る。	保健福祉総務課 健康推進課
6	クラシックライブを楽しむ会 柏支部	講演とミニコンサート 歌って脳力UP!!	脳の老化防止に関する講演会と童謡・唱歌を参加者も共に歌うミニコンサート、クラシック演奏会を開催し、クラシック音楽のライブ演奏を楽しみながら脳力アップを図る。	文化課
7	花ボラ会	大津ヶ丘中央公園敷地内の花壇の協働による管理事業	大津ヶ丘中央公園敷地内の花壇の維持管理を通じ、市民に憩いの場・癒しの場を提供する。	公園管理室
8	ふそう会	傾聴ボランティア員養成講座の開催	高齢者の孤独を癒す「傾聴ボランティア」の養成を図る講座を実施する。	保健福祉総務課 高齢者支援課
9	JSL児童生徒の日本語と教科学習の支援会	柏JSL学習会	外国籍の子どもたちの健全育成を支援するための「母国語及び日本語での一対一指導」による学習会を開催することにより、日本語を第二言語とする子どもたちの健全育成を支援するとともに、共生の社会づくりを推進する。	国際交流室 児童育成課 指導課
10	NPO法人 とくわ会まちづくりネットワーク	中高年のパソコン初めて勉強会	インターネットの活用を主眼に置いた入門的パソコン講習会を開催。インターネットの活用による生涯学習、自発的・主体的な仲間づくり、地域活動への参加を促し、中高年の健全なシニアライフ設計を図るとともにデジタルデバイトの解消を目指す。	情報政策室 高齢者支援課 社会教育課

平成17年度 協働事業提案の状況（その2）

※「網掛け」部分：選考を通過した提案（5件）

No.	提案団体名	事業名	事業内容	関係部署
11	NPO法人 スマイルクラブ	小学校体育の授業サポート事業	小学校における体育授業に指導スタッフを派遣し、運動の苦手な子どもや障がいを持つ子どものフォローを行うことにより、児童の学ぶ意欲及び授業効果を高め、子どもの体力低下を防止する。	指導課
12	公園・緑地の管理NPO市民の会	協働による美しい緑のまちづくり実現に努力しよう	環境美化の精神に則った公園の維持管理（除草、ごみ収集、遊具点検）を実施し、市民の憩いの場・癒しの場としての公園実現を目指す。また、公園内の見回りを行うことで、公園の安全を確保する。	公園管理室
13	楽学生活協会 柏支部	『子どもの自律力を育む教育』講座の開催	ニートを生み出さない基礎づくりとして、金銭教育を切り口とした講座を開催。これにより、現実を理解し対峙することを学ぶことによる子どもの自律心向上及び働く意味を考えるきっかけづくりを図る。また、親が家庭を学習の実践場とするための方法を学ぶ機会とする。	児童育成課 社会教育課 青少年課
14	特定非営利活動法人 クリーンエコ	南部クリーンセンター周辺のごみ収集業務	南部クリーンセンター周辺において、シルバー世代及び障がい者参加のもと、地域住民の手による家庭ごみの収集を実施することにより、ごみ分別・集積所管理の徹底を促し、ノーマライゼーションの理念に則したコミュニティの形成を図る。	クリーン推進課
15	特定非営利活動法人 クリーンエコ	地域住民による公園、緑地管理・保全業務	緑住リフレッシュ拠点を中心とする南部地区の公園、緑地をシルバー世代及び障がい者参加のもと、地域住民の手で管理・保全することによって、人と自然が共生する環境を創造する気運の高揚を促すとともに、ノーマライゼーションの理念に則したコミュニティの形成を図る。	公園管理室
16	特定非営利活動法人 パートナーとうかつ	福祉施設への出前講座	高齢者や障がい者の入居施設を訪問し、生きがい増進と快適生活をサポートするための健康増進講座・カルチャー講座を実施する。	高齢者支援課
17	特定非営利活動法人 パートナーとうかつ	親子ふれあいプラザの開催	工作などの物づくりと自然観察を通じて、創意工夫や自然環境の大切さを学び、より良い人間関係の形成を目指す「親子ふれあいプラザ」を小学校低学年とその保護者を対象として開催する。	児童育成課 社会教育課 中央公民館
18	特定非営利活動法人 パートナーとうかつ	PT健康生活講座の開設	中高年層の病気予防・健康増進を図ることを目的とした、ストレッチ体操と健康知識を合わせた講座を開催することにより、健康保険制度の財政的負担の減少を図る。	健康推進課
19	特定非営利活動法人 手賀沼沼協会	手賀沼利用会議の開催	地域における貴重な水資源として、手賀沼を有効利用することを目的としたフォーラムを開催する。	環境保全課

平成17年度 協働事業提案の状況（その3）

※「網掛け」部分：選考を通過した提案（5件）

No.	提案団体名	事業名	事業内容	関係部署
20	特定非営利活動法人 NPO 支援センター ちば	移動支援の実態調査と移動支援人材育成研修の開催	障がい・高齢化などの移動制約によって社会参加しづらい市民の外出支援としての福祉輸送サービスに関する実態調査及び市民への情報提供を実施。また、移動支援を行う団体などを対象とした研修会を開催し、移動支援活動の担い手を育成する。	企画調整課 保健福祉総務課
21	NPO法人 ひとものまちづくり 柏	若年者の就労支援	若年者の雇用問題を解決することを目的に『就職相談』、『職業教育』、『情報提供』、『合同企業説明会』を実施し、「ニート」、「フリーター」の減少を図る。	商工課
23	NPO法人 ひとものまちづくり 柏	団塊世代キャリア塾	団塊の世代の大量退職（2007年問題）に向けて、団塊世代の人生設計の支援を目的とした講座を開催。人生のセカンドステージに向けて、それまでのキャリアと生き方を棚卸しすることで、よき市民としてどう自分を生かしていくかを整理してもらうことにより、市民生活の活性化と市民社会に貢献する人材の育成を図る。	社会教育課 市民活動推進課
24	NPO法人 ひとものまちづくり 柏	ファイナルプラン作成支援	高齢者の漠然とした不安を解消し、自分らしい老後を過ごすことを支援するために、人生の終末をきちんと準備する「ファイナルプランセミナー」を開催する。	高齢者支援課
25	NPO法人 愛と憩いと友情の館	若年無業者（ニート・フリーター）に対する就業支援教育	ニート及びフリーターに対する就業支援と親に対する支援講座を開催。これにより、講座参加者の就労意欲を高め、若年無業者の高齢化によるホームレス化を防ぎ、社会補償費及び税金の確保及び将来的な生活保護受給者の抑制を図る。	商工課 指導課
26	特定非営利活動法人 いしずえ	地域高齢者のためのナイトサロン事業	沼南「いこい荘」の空き時間（17時～21時）を利用し、地域高齢者を対象としたナイトサロンを開催。「入浴」・「食事」・「送迎」のサービスと“つどいの場”を設けることで、（主として虚弱老人が）精神的に不安になりがちな夕方から夜間にかけての安らぎの場を提供する。また、利用日以外は、「おやすみなさいコール」による安否確認を行うほか、希望者に対しては一次保護を実施。	高齢者支援課

※No.20 は選考を通過したが、提案者による取り下げのため事業実施に至らず

平成18年度 協働事業提案の状況

※「網掛け」部分：選考会を通過した提案（2件）

No.	提案団体名	事業名	事業内容	事業予算 (円)	市の事業関係課
1	(特活)教育支援三アイの会	柏市における、教育支援活動の具体的な展開方法の研究と実践 ～学校での教育活動に参加できない児童生徒への支援組織と活動の展開～	1 不登校児童生徒の実態把握 2 教育委員会との連携による「対策協議会の設置 3 不登校児童生徒の居場所となる『夢未来塾』を開設し、学習及び生活支援活動を実施 4 教育を考えるための市民参加型フォーラムなどの開催	1,602,000 ※うち市の負担額 1,527,000	指導課 教育研究所
2	(特活)せっけんの街	子どもの未来のための食育と環境教育	循環型社会の確立を目指し、廃食油からのリサイクルせっけんづくりを小学校等における環境学習授業として協働で実施する。	597,000 ※うち市の負担額 447,000	クリーン推進課 環境保全課 消費生活センター 指導課
3	(特活)おいじたくあんしんねっと	「おいじたくあんしん相談室」の開設	1 老後のライフプラン等に関する相談窓口の開設 2 老後のライフプラン等に関するセミナー、出前講座の開催	700,000 ※うち市の負担額 520,000	広報広聴課 高齢者支援課 (社会福祉協議会)
4	(特活)NPO支援センターちば	移動支援サービス調査並びに移動制約者と福祉交通への理解を深めるリーフレットの作成及び学習会の開催	1 移動支援団体のサービス内容の調査を実施するとともに、リスト化し市民に情報提供を行う 2 移動制約者への理解と協力を求めるリーフレットを作成し、学習会を開催	1,503,490 ※うち市の負担額 1,224,490	企画調整課 保健福祉総務課 高齢者支援課 障害福祉課 (社会福祉協議会) 学校教育課 指導課

平成19年度 協働事業提案の状況

※「網掛け」部分：選考会を通過した提案（1件）

No.	提案団体名	事業名	事業内容	事業予算 (うち市の負担額)	市の事業関係課
1	年金・労働 相談研究会	年金相談の 実施	年金窓口の恒常的な混雑の解消と、市民満足度向上のため、既存の相談事業との振り分けをして相談を行う。	402,000円 (388,800円)	保険年金課
2	地域支援委 員会	地域子育て 支援のため の訪問相談 の実施	1 市内企業を対象に子育てに関する制度や労務問題についての訪問相談 2 保育施設を訪問し、子育て世代の仕事と家庭生活の調和についてヒアリング調査	780,000円 (605,000円)	児童育成課 保育課 商工課 男女共同参画室
3	(特活) 柏・ 地域福祉ネ ット“風の 木”	地域高齢 者・介護家 族支援施策	1 介護家族講座、ふれあいヘルパー養成講座の実施 2 講座修了者を中心にした地域でのショップ展開やヘルパー派遣	2,910,000円 (600,000円)	高齢者支援課 障害福祉課 商工課
4	美しい地域 づくりの 会・花ごこ ろ	戸張地区で の環境美化 活動	1 コミュニティガーデン 2 ストリートガーデン 3 小規模公園の維持管理 4 戸張地区公園の維持管理 5 花苗の大量安価供給システムの構築	3,430,200円 (2,572,650円)	南部クリーンセンター 都市計画課 公園管理室 道路維持課 下水道維持課 (みどりの基金)
5	CAPなの はな	安全教育支 援事業	子ども・親・地域に住む大人・教職員を対象にCAPワークショップを実施し、子どもの心と体への暴力防止を図る。	3,160,000円 (2,530,000円)	生涯学習課 ◎学校安全対策室 指導課
6	(特活) 牧場 跡地の緑と 環境を考え る会	中原ふれあ い拠点ー防 災公園共用 地利用プロ ジェクト	中原ふれあい防災公園隣接の共用地利用について、住民アンケート調査や近隣の公共施設の実態調査等を行ってとりまとめ、地域拠点施設の提案をする。	747,000円 (747,000円)	企画調整課 広報広聴課 公園緑政課 保健福祉総務課

◎…事業の主担当課



平成20年度 協働事業提案の状況

※選考会を通過した提案は0件

No.	提案団体名	事業名	事業内容	事業予算 (円) 市負担分	事業関係課
1	若美会	小中学生への 日本伝統芸能 の伝承	踊を通して日本の伝統芸能 を体験し、礼儀作法や人 に対しての思いやり及び美 しい姿勢等を教え伝える。	520,000 500,000	企画調整課 市民活動推 進課
2	特定非営利活 動法人 NPO共生	柏市介護家族 応援センター の開設	介護者を抱える家族等を対 象に、行政機関や民間事業 者と連携して適当なサービ スのコーディネートやサ ポートを行う。	1,531,000 696,000	介護保険管 理室 地域包括支 援センター
3	特定非営利活 動法人 百尺竿頭	医療費削減と 健康維持管理 のための太極 拳ボランティア 養成講座	自発的な健康管理を誘発す るため、健康体操として太 極拳を指導する地域リー ダーを養成し、効果測定等 を行う。	800,000 500,000	保険年金課 地域健康福 祉課
4	特定非営利活 動法人 アロハート	カウンセラー 養成講座	児童虐待や介護苦による殺 人自殺、心身疾患などの悩 みを抱え込む前に、身近な 地域で話を聴き心を支える カウンセラーを養成する。	275,000 225,000	保健福祉総 務課 高齢者支援 課
5	特定非営利活 動法人 アロハート	(仮称) お休 み処	商店街の空き店舗等を利用 して、軽飲食の提供や買物 や荷物運搬サービス、ミニ ギャラリーやおしゃべりサ ロンを運営し、地域のコ ミュニケーションや商店街 の活性化を図る。	2,170,000 1,200,000	商工課 保健福祉総 務課 高齢者支援 課 障害福祉課 (社会福祉 協議会)
6	スポーツ吹矢 柏吹会	健康スポーツ 「スポーツ吹 矢」体験講座	市民参加と健康づくりの促 進のため、老若男女問わず 取り組める、腹式呼吸を活 かしたスポーツ吹矢の体験 講座を行う。	356,000 306,000	市民活動推 進課 広報広聴課 生涯学習課 スポーツ課

平成21年度 協働事業提案の状況

※選考会を通過した提案は0件

No.	提案 団体名	提案事業名	事業内容	事業予算 (うち市の負 担額)	事業関係課
1	(特活) 権利擁護 あさひ	がん患者な どの中間緩 和ケアハウ ス	①がん患者（独居及び県内外 からがん治療に来る人も含 む） ②高齢者や障害者の独居で重 篤な疾患を持つ人 ③退院後，次の施設や住居ま での短期宿泊所の必要な人 に対して宿泊所及びケアを提 供するもの	36,624,000円 (11,320,000 円)	◎保健所総務企画 課 保健福祉総務課 高齢者支援課 障害福祉課
2	(特活) 情緒教育 研究所 柏支部	不登校・引 きこもりへ の解決と予 防対策講 座・個別相 談	小・中学校や近隣センター等 において，保護者及び教員を 対象としたEQ概念による 「不登校・引きこもりの解 決」のための講演会や個別相 談を定期的を開催する	3,850,000円 (2,986,000 円)	◎教育研究所 児童育成課 保健所保健予防課

◎…事業の主担当課

平成22年度 協働事業提案の状況

※「網掛け」部分：選考会を通過した提案（2件）

No.	提案団体名	事業名	事業内容	事業予算 (うち市の負担額)	市の事業関係課
1	(特活)スマイルクラブ	子どもスポーツ苦手解決支援事業 スマイル運動教室(鉄棒上達教室)	①鉄棒上達教室スタッフ養成研修会の実施(鉄棒上達教室に参加するスタッフ10名の事前の実技研修を行う) ②鉄棒上達教室の実施(市内の小中学校5校で1回60分の教室を週2回で合計8回実施する)	1,369,000円 (1,369,000円)	◎スポーツ課 指導課
2	グループSEC(地域で‘性共育’をつくる会)	学校における「デートDV」防止教育プログラム実施事業	中高生を対象に、参加型のロールプレイやグループ討議を展開しながらワークショップ形式の講座を実施する。	300,000円 (300,000円)	◎学校保健課 指導課 男女共同参画室
3	ワーカーズ・コレクティブういず	エン結び(地縁・志援・エンパワーで繋げる人の援)	①松葉地区の高齢世帯・単身高齢者約2000人への声かけ訪問を行う。 ②多種多様なニーズに合わせた講座や介護予防教室を開催する。	1,650,000円 (1,000,000円)	◎福祉活動推進課
4	(特活)福祉サービスかしわ市民の会	移動困難者(身体障がい者、介護認定者)の福祉運送	自宅に籠もりがちな移動困難者の移動を、セダン型マイカーでサポートする。24時間休日なしの運用で、困りごと相談にも応じる。	2,500,000円 (400,000円)	◎保健福祉総務課 高齢者支援課 障害福祉課 交通政策課

◎…事業の担当課

<平成22年度までの実績>

年度	提案件数	事業実施件数
平成17年度	26	4
平成18年度	4	2
平成19年度	6	1
平成20年度	6	0
平成21年度	2	0
平成22年度	4	2